

変化好機に生産性向上へ

青森県内で2024年の春闘が大詰めを迎えている。昨年からの春闘の動きが活発化しており、賃上げに対する重要性の認識や価格転嫁の適正化が進む中、継続した賃上げが実現するかが焦点となる。連合青森の妥結状況に関する中間報告（19日時点）では、平均賃上げ額が過去最高の1万64円となり、初めて1万円台に達した。労働者側の視点から条

件の引き上げを図る連合青森の塩谷進会長は、県経済の発展には賃上げが不可欠とし、「賃金も物価も安定的に上昇する上で正念場。今を転換期と捉え、労使共にマインドを変化させることが重要」との認識を示す。

日本銀行も賃金と物価の好循環が強まったと判断し、金融政策の転換を図った。日銀青森支店の武藤一郎支店長は

「環境の変化を好機と捉え、生産性向上や付加価値向上に取り組んでほしい」と強調する。両氏の提言から見えてくるのは、労使共に賃上げの動きを大きな転換点と捉え、生産性の向上や商品の高付加価値化に積極的に取り組むことの重要性だ。経済界のキーパーソンから県経済発展のためのヒントを探った。（玉川那津美）

労使共にマインド転換を

賃上げ継続 実現するか

連合青森会長 塩谷 進氏



「賃金も物価も安定的に上昇するステージ転換の正念場だ」と強調する塩谷進会長

124年春闘が進行中だ。塩谷 05く22年まで妥結額を平均4千〜5千円台だったのを踏まえると、県内で1万円の大台に乗った意義は大きい。先行組合のサンデー（賃上げ率7%）やユニバースが大幅に引き上げ、間違いなく県内の機運をつくってくれた。そこに地場組合も続いてほしい。

武藤 日銀としても今春闘を例年にならざる、重視している。支店としても労組を持たない企業を含めた県内情勢を調査したが、約8割が賃上げを見込んでいた。賃上げは経済の好循環に向けた必要条件。賃上げ機運は今年も続いているように、最終的にどこまでいくか注目している。

12年連続で賃上げの動きが広がっている。塩谷 賃金も物価も安定的に上昇するステージ転換の正念場と捉えている。新たなステージに向けた第一歩が昨年までいくか注目している。

武藤 日銀としても今春闘を例年にならざる、重視している。支店としても労組を持たない企業を含めた県内情勢を調査したが、約8割が賃上げを見込んでいた。賃上げは経済の好循環に向けた必要条件。賃上げ機運は今年も続いているように、最終的にどこまでいくか注目している。

塩谷 賃金も物価も安定的に上昇するステージ転換の正念場と捉えている。新たなステージに向けた第一歩が昨年までいくか注目している。

武藤 日銀としても今春闘を例年にならざる、重視している。支店としても労組を持たない企業を含めた県内情勢を調査したが、約8割が賃上げを見込んでいた。賃上げは経済の好循環に向けた必要条件。賃上げ機運は今年も続いているように、最終的にどこまでいくか注目している。

塩谷 賃金も物価も安定的に上昇するステージ転換の正念場と捉えている。新たなステージに向けた第一歩が昨年までいくか注目している。

武藤 日銀としても今春闘を例年にならざる、重視している。支店としても労組を持たない企業を含めた県内情勢を調査したが、約8割が賃上げを見込んでいた。賃上げは経済の好循環に向けた必要条件。賃上げ機運は今年も続いているように、最終的にどこまでいくか注目している。



「経済の転換期を好機と捉え、生産性向上にチャレンジを」と提言する武藤一郎支店長

武藤 内需型の県内企業にとっては厳しい環境だと思いが、今生じてる変化を経ない望ましい経済の均衡や県民の豊かさにたどり着かない。企業としての付加価値を生み出すための競争は、最終的に経済の生産性を高めることにつながると思う。変化を好機と捉え、チャレンジしていく姿勢が県内に広がっていくことを期待したい。

日銀青森支店長 武藤 一郎氏